

## 私を変えた映画

ブ・シギョウ

スピーチを始める前に、皆さんに質問したいと思います。心に残る映画はありますか？人それぞれに答えがあると思いますが、私も例外ではありません。心に残るだけでなく、私の人生観を変えてくれた映画があります。

その映画は、アメリカ映画の「ロッキー」です。この映画は、三流ボクサーのロッキーが世界チャンピオンのアポロにアメリカ建国200周年を記念した試合の相手として選ばれたことから始まります。この試合はほとんどの人にアポロの個人的なショーと見なされていましたが、ロッキーはこのチャンスを放棄せず、試合でアポロに全力で挑み、最後まで倒されませんでした。試合には敗れたものの、ロッキーは尊厳を勝ち取りました。

なぜこの映画は私を変えたのでしょうか？私は転校と引っ越しを繰り返したため、高校時代はどのクラスにも馴染めず、成績も良くなかったため、自然と孤立してしまいました。なぜ受け入れられないのかが分からなくて、他の人に文句を言いたかったのですが、その勇気がなく、ただ毎日授業中に居眠りをして、自暴自棄になってしまいました。父は私を励ますために、「ロッキー」という映画を勧めてくれました。しかし、その映画は私を励ますどころか、落ち込ませて、同時に、ロッキーはただの哀れな男で、あれだけ努力したのに最後は勝てなかったのだから、報われない努力だったと思い、その映画がとても嫌いになりました。

時間を経て、私はますます臆病で敏感になり、周囲の人々の悪意も前より一層酷くなりました。私はこの現状を変えたいと思いましたが、どうすることもできませんでした。大きな苦しみの中で、ロッキーの物語が再び思い出しました。ロッキーが彼を見捨てたコーチの気を引こうとしたように、私も彼と同じように自暴自棄によって、自分を傷つけた人を罪悪感に陥らせ、受け入れてもらいたいと思っていましたが、それは他人の意見を過度に気にすることであり、他人の過ちで自分を罰しているだけです。他人の尊敬を得て、自分の尊厳を取り戻すためには、困難に立ち向かい、積極的に挑戦し、自分の決意を示さなければなりません。

人生の中で、否定され、皮肉を言われることは避けられませんが、今の私は、二度と逃げません。ロッキーは言いました。もし最終ラウンドが終わってゴングが鳴っても、俺がリングの上に立っていたら、俺は人生で初めてそのへんのゴロツキじゃないってことを証明できるんだ。私が勝ち取りたい尊厳と比べれば、困難はただ取るに足らないものであり、私が頂点に登るための足がかりになるだけなのです。これが、私の変化です。

ご清聴ありがとうございました。